

Newsletter



Institute for International Monetary Affairs
公益財団法人 国際通貨研究所

比較優位でみたブラジルの貿易構造の変化

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 研究員
井上 裕介
inoue@iima.or.jp

<要約>

- ブラジル経済は、2000年代中盤以降、2011年ごろまで好成長を実現した。1人当たりGDPも10,000ドルを超え、今後有望な経済大国としてさらなる成長が期待されていた。
- しかし、2012年以降、国際商品市況の低迷などから、ブラジル経済は減速感を強めている。同国の主要輸出品の商品価格は一部を除いて下落が続いており、ブラジル経済の足かせとなっている。それまで悩まされていた自国通貨高が修正されつつあるにもかかわらず、ブラジルの国内生産や貿易収支にも劇的な改善はみられない。
- こうした背景には、資源ブームによる高成長期間を通じて、ブラジル経済における一次産品の比較優位性と、非一次産品である工業品全般への比較劣位性が強まっていることがある。
- ブラジル経済は、これまでの国際商品市況の高騰によって隠れていた構造的な問題点が再び目立つようになっており、再選を果たしたルセフ大統領が、足元の一次産品輸出金額の頭打ち、自国通貨安をプラスに捉えて、非一次産品の貿易財の競争の改善につながるような経済政策を行うことができるかどうか、今後の同国の将来性を占う上での試金石となるだろう。

<本文>

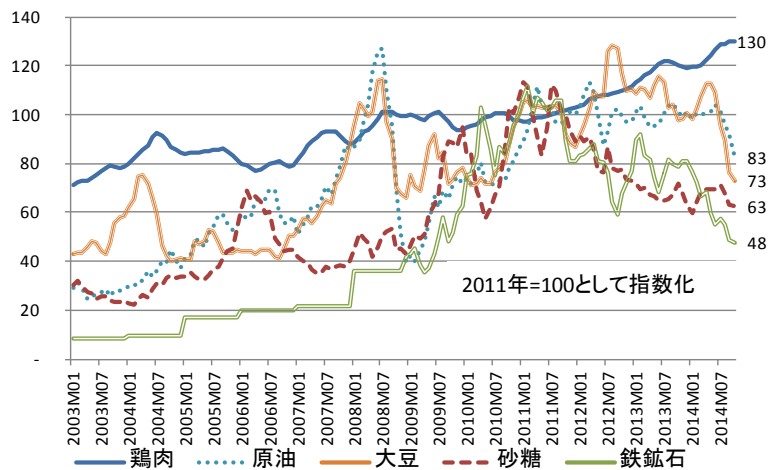
1. 国際商品市況の低迷から減速するブラジル経済

ブラジル経済は 2000 年代中盤以降、資源ブームを背景とした一次産品の輸出増加と高成長を期待した海外からの大量の投資資金流入が牽引役となり、高成長を実現してきた。また外貨準備高も大幅に増加し、通貨に対する信認も回復したことから、レアル相場も大幅に上昇した。

国際通貨基金（IMF）データによれば 1 人当たり名目 GDP は 2003 年に 3,058 ドルであったが、2011 年には 12,536 ドルまで上昇した。ブラジルは豊富な天然資源や広大な土地で生産される農作物に加えて、エタノールや航空機などの競争力の高い製造業を擁していたことから、さらなる成長が期待されていた。

しかしその期待とは裏腹に、2012 年以降のブラジル経済は、国際商品市況の低迷を受けて減速感を強めている。GDP 成長率は 2012 年+1.0%、2013 年+2.5%と続き、2014 年については、中央銀行が毎週発表している民間エコノミストの予想では+0.2%、2015 年は+0.8%まで下方修正されている（2014/11/7 付）。図表 1 はブラジルの主要輸出の価格推移であるが、一部を除いて 2011 年後半以降、下落が続いており、ブラジル経済の足かせとなっている。

図表 1 ブラジルの主要輸出品目の市場価格の推移



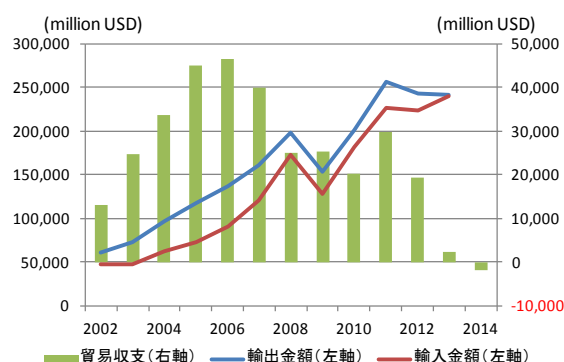
(出所) IMF commodity index データより筆者が作成

国際商品市況の下落を受けて、2003 年以降、世界金融危機時を除き上昇基調にあったブラジルレアルも 2011 年後半以降、下落に転じた。本来ならば、自国通貨の下落は、

貿易財の価格競争力の向上、国産品の輸入品に対する価格競争力の向上から、国内の生産活動の促進や貿易収支が改善につながる。しかし、ブラジルは、自国通貨が下落基調にあるにもかかわらず、国内生産は伸び悩み、貿易黒字は回復どころか縮小を続け、通年での貿易赤字も目前となっている。

こうした現在のブラジル経済の苦境の背景の一つとして、同国の貿易構造の変化がある。国際商品市況の上昇による恩恵を受けた同国は、同時に自国通貨高を伴ったことから、非一次産品の貿易財の競争力を失ったと考えられるからだ。

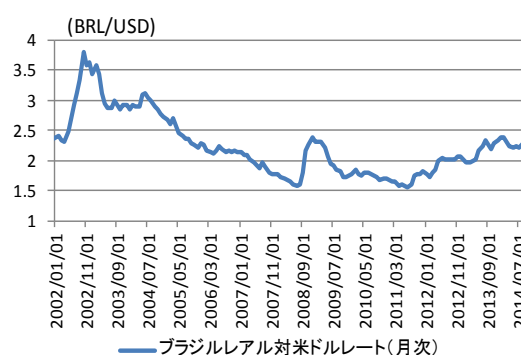
図表 2 ブラジルの貿易統計



(出所) Ministry of Development, Industry and Foreign Trade, ブラジル中央銀行

(注) 2014年の貿易収支は1-10月の合計値

図表 3 レアル相場の推移



2. ブラジルの貿易財の比較優位性の変化

ブラジルの貿易構造の変化は、ある財の一国における輸出入シェアと世界総輸出入における輸出入シェア¹の比率を用いた貿易財の比較優位性を表した指数²で確認することができる。ブラジルの輸出サイド、輸入サイド、貿易全体における比較優位性の変化をみると、同国経済が2000年代以降の経済成長を通じて資源依存を急速に強め、典型的なオランダ病（資源の呪い）に陥ってしまったことを示唆している。

¹ 比較優位性を表す指数を算出するにあたって、WITS (World Integrated Trade Solution) のデータを使用した。なお輸出の比較優位性に関する指数については同ウェブサイトにて数値が採れるのでそれらをそのまま使用した。輸入の比較優位性と貿易全体の比較優位性に関する指数については、ブラジルの産業別の輸入シェアデータ、世界総輸入における産業別の輸入シェアのデータを用いて筆者自らが数値を算出した。

なお品目別の貿易金額およびシェアのデータについては世界関税機構 (WCO) による分類である HS1998/92 を本レポートでは使用した。WITS のウェブサイトでは、国連統計局による基準である SITC Rev2 で分類された貿易金額およびシェアのデータも取得することができる。

² 指数の詳細については巻末の補論を参照のこと。

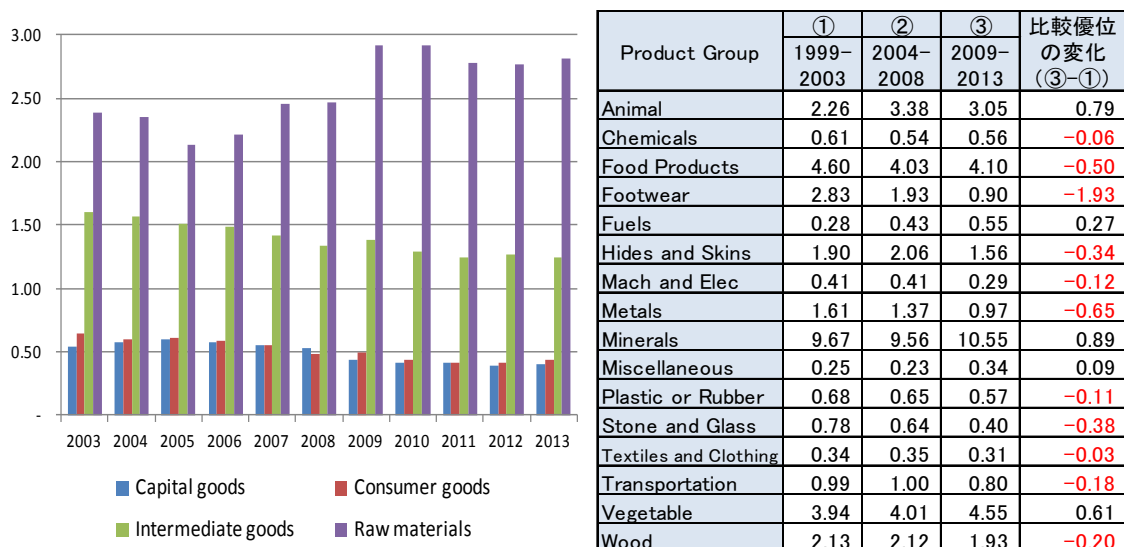
○輸出サイド～鉱物、植物性生産品を中心とした原材料の比較優位性が強まる～

ある財の一国における輸出シェアと世界全体における輸出シェアからみた比較優位性を表す指数として顕示比較優位指数（RCA：Revealed Comparative Advantage）がある。同指数が1を上回ると一国におけるある財は比較優位性があると考えられる。

工程別では、もともと高かった原材料の比較優位性は世界金融危機後に高まっている。中間財については1以上を維持しているものの低下基調にある。資本財と消費財はもともと1を下回っており比較優位ではなかったが、近年はますますその数値が下がってきている。

品目別では、直近では動物性生産品、食料品、革製品、鉱物、植物性生産品の数値が高い。特に鉱物、植物性生産品については、2009-2013が最も高い数値を示しており、一次産品の比較優位が強まっている。また、軽工業から重工業まで工業製品全般のRCAが軒並み低下基調にある。以前は比較優位にあったと思われた履物類や金属製品、輸送用機器が直近では1を下回っており、比較優位を失っている。

図表4 ブラジルの顕示比較優位指数(RCA)の推移
(左：工程別 右：品目別)



(出所) World Integrate trade Solution データより筆者が作成

(注) 右図の比較優位の変化については、プラスが大きくなるほど比較優位が強まったことを示す。

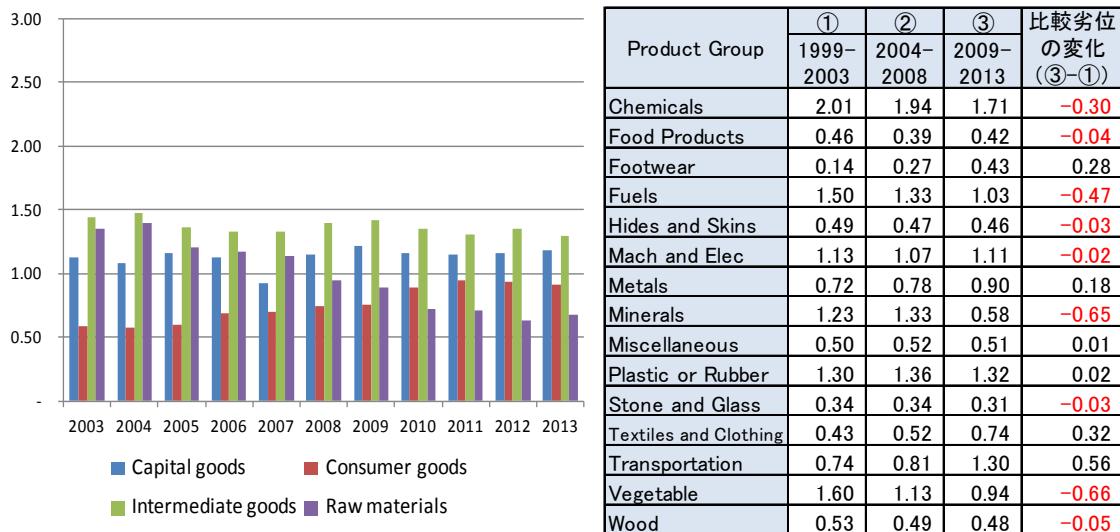
○輸入サイド～工業製品の比較劣位傾向が年々強まる～

ある財の一国における輸入シェアと世界全体における輸入シェアからみた比較優位性を表す指数として、顕示比較劣位指数（RCDA：Revealed Comparative Disadvantage）がある。同指数が1を上回ると一国におけるある財は比較劣位性があると考えられる。

工程別では、以前は比較劣位にあった原材料が、2008年以降1を下回り比較劣位ではなくなっている。また以前は大幅に1を下回っていた消費財が近年1に近付いてきており、消費財の輸入割合が増加してきていることが推察される。中間財と資本財は対象期間を通して1を上回っており、比較劣位であることがわかる。

品目別では、直近では、化学製品、燃料、機械・電気機器、プラスチック・ゴム、輸送用機器が1を上回っており、ブラジルでは主に重工業製品が比較劣位にあることがわかる。特に燃料の数値が減少し、比較劣位が弱まっているのに対して、輸送用機器の数値が1を上回ってきていることが目立つ。

図表5 ブラジルの顕示比較劣位指数(RCDA)の推移
(左：工程別 右：品目別)



(出所) World Integrate trade Solution データより筆者が算出および作成

(注) 右図の比較劣位の変化については、プラスが大きくなるほどが比較劣位が強まったことを示す。

○貿易全体～一次産品輸出の比較優位、工業品の比較劣位の傾向が強まる～

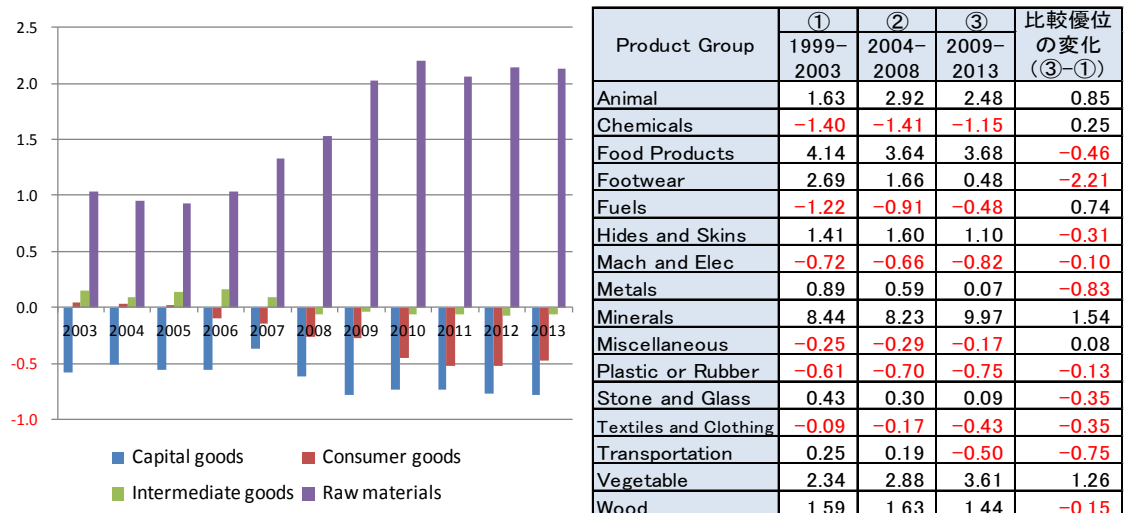
前述の RCA と RCDA の差を顕示貿易統合比較優位指数（RTA：Relative Revealed Comparative Trade Advantage）という。これは一国におけるある財の貿易全体でみた比較優位性をみる指数で、指数がゼロを上回った場合、ある財は比較優位性があると考えられる。

工程別では、直近の 2013 年は原材料のみがプラスで、資本財、消費財、中間財はマイナスになっている。原材料のプラス傾向、資本財、消費財、中間財の減少傾向が一貫して続いていることから、一次産品輸出に比較優位性があり、資本財、消費財、中間財が比較劣位にあることがわかる。

品目別では、直近では動物性生産品、食料品、革製品、鉱物、植物性生産品、木材が大幅にゼロを上回っており、これらの貿易財に比較優位性があることがわかる。特に鉱物や植物性生産品などは比較優位の傾向が強まっている。

一方で、化学製品、燃料、機械・電気機器、プラスチック・ゴム、衣料品、輸送用機器が大きくゼロを下回っており、これらの貿易財が比較劣位にあることがわかる。燃料は、原油輸出の拡大から、比較劣位が縮小してきている一方、以前は比較優位にあった輸送用機器は 2009-2013 年には比較劣位に変化した。また履物類や衣料品などの RTA 数値の下落も目立っており、軽工業品の競争力も減少していることがわかる。

図表 6 ブラジルの顕示貿易統合比較優位指数(RTA)の推移
(左：工程別 右：品目別)



(出所) World Integrate trade Solution データより筆者が算出および作成

(注) 右図の比較優位の変化については、プラスがある品目の比較優位が強まったことを、マイナスがある品目の比較優位が弱まったことを示す

3. 一次産品輸出への依存が強まったブラジル経済

前節の3つの比較優位指数をみると、数字の上でもブラジルの貿易構造は一次産品の比較優位性と、非一次産品の工業品全般への比較劣位性が強まっていることがわかる。ブラジルの広大な土地と豊富な天然資源が2000年代の経済成長のけん引役となったが、同時に一次産品輸出による資金流入が自国通貨高へとつながり、その他の産業の競争力を失わせていたことが数字の上でも現れている。一次産品輸出に比較優位性を持つブラジルにとって、2011年後半以降の国際商品市況の低迷は、逆風であることは言うまでもなく、その深刻度もこれまで以上に強まっていることが推察される。

ブラジル経済は、これまでの国際商品市況の高騰によって隠れていた構造的な問題点が再び目立つようになってきている。2014年10月の大統領選挙で再選を果たしたルセフ氏が、足元の一次産品輸出金額の頭打ち、自国通貨安をプラスに捉えて、非一次産品の貿易財の競争力の改善につながるような経済政策を行うことができるかどうか、今後の同国の将来性を占う上での試金石となるだろう。

<補論> 顕示貿易統合比較優位指数 (RTA) とは

ある国のある財貿易における比較優位性を表す指数として顕示貿易統合比較優位指数 (RTA : Relative Revealed Comparative Trade Advantage) がある。これは、i 国の総輸出における x 財シェアと世界総輸出における x 財の輸出シェアを比較して i 国における x 財の比較優位性を算出した顕示比較優位指数 (RCA : Revealed Comparative Advantage) から、i 国の総輸入における x 財の輸入シェアと世界総輸入における x 財の輸入シェアを比較して i 国における x 財の比較劣位性を算出した顕示比較劣位指数 (RCDA : Relative Comparative Disadvantage) を引いたものである。

たとえば、i 国の総輸出における自動車輸出のシェアが 15%、世界総輸出における自動車輸出のシェアが 12%だった場合、顕示比較優位指数 (RCA) は 1.25 (=15%/12%) となる。RCA が 1 を超える場合は比較優位性がある。

同じく、i 国の総輸入における自動車輸入のシェアが 6%、世界総輸入における自動車輸入のシェアが 12%だった場合、顕示比較劣位指数 (RCDA) は 0.5 (=6%/12%) となる。RCDA が 1 を超える場合は比較劣位性がある。

よって i 国における自動車貿易の顕示貿易統合比較優位指数 (RTA) は 0.75 (=1.25-0.5) となる。RTA が 0 を超える場合は輸出入の貿易全体を含めて比較優位性があるということが出来るため、i 国は自動車貿易に比較優位性を持っていると考えられる。

RCA、RCDA、RTA の算出式

$$\begin{aligned} RCA_{ix} &= \frac{\text{i 国の総輸出金額における i 国の x 財の輸出シェア}}{\text{世界全体の総輸出金額における世界全体の x 財の輸出シェア}} \\ RCDA_{ix} &= \frac{\text{i 国の総輸入金額における i 国の x 財の輸入シェア}}{\text{世界全体の総輸入金額における世界全体の x 財の輸入シェア}} \\ RTA_{ix} &= RCA_{ix} - RCDA_{ix} \end{aligned}$$

以上

参考資料

・内閣府、“政策課題分析シリーズ【第2回】経済連携協定・自由貿易協定（EPA/FTA）の効果－貿易と成長を促すEPAとはどのようなものか”、2008年12月1日

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2014 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>